

主 題：正義をもたらす神のしもべ

聖書箇所：イザヤ書 42章 1-13節

ケン・フラー師＝夫人と三人の息子さん（12・8・6歳）とアメリカ・フロリダ州タンパに居住、The Master's Academy International の責任者であり、The Believer's Foundation のリーダー、世界中13ヶ国を周ってメッセージ、学びをしておられる。今回はインド伝道旅行の帰路、この浜寺に寄ってくださり、26-27日は「ピリピ書講解」のセミナーをもってくださった。家族と離れることは淋しいが行く先でのクリスチャンと出会いは楽しいと言われる。夫人は教会で手話通訳をしておられる。

「福音」とは「良い知らせ」です。この「イザヤ書」も「良い知らせ」に満ちた書です。そのことは余りにも明らかです。なぜなら、福音書の著者たちが新約聖書の中でこの旧約のイザヤ書を何度も引用しているからです。イザヤ書に見ることができるメシヤに関する記事を、新約聖書はイエス・キリストに適用しています。けれども、「良い知らせ」の前に私たちは時に「悪い知らせ」を多く見ます。そして、この「悪い知らせ」がある故にこの「良い知らせ」が良いものであるのです。イザヤにとってこの「悪い知らせ」というのは人々が罪を犯したということです。人々は罪を犯し、神はその民をさばかれました。このイザヤ書は、神がイスラエルをさばいて彼らを捕囚に連れて行く100年も前に書かれた書です。ですから、ユダヤ人たちはその捕囚の中にあってこのイザヤの預言書を持って読んでいたのです。彼らはその本を読みながら「どうして私たちはここに連れて来られたのだろう」と疑問を持ちました。それに対してイザヤは答えをもっていました。また、「いたい、どのようにしてここから逃れることができるのだろう。」と、イザヤはその答えをもっていました。確かに、彼らは捕囚へと連れて行かれましたが、そのような捕囚というのは、実はその前にあったもっと大きな問題が原因だったのです。彼らは実は国に捕らわれていたのではなく、罪に捕らわれていたのです。イザヤ書1:5-7に「悪い知らせ」があります。「あなたがたは、なおもどこを打たれようというのか。叛逆に叛逆を重ねて。頭が残すところなく病にかかり、心臓もすっかり弱り果てている。:6 足の裏から頭まで、健全なところはなく、傷と、打ち傷と、打たれた生傷。絞り出してももらえず、包んでももらえず、油で和らげてもらえない。:7 あなたがたの国は荒れ果てている。あなたがたの町々は火で焼かれ、烟は、あなたがたの前で、他国人が食い荒らし、他国人の破滅にも似て荒れ果てている。」、これが罪です。神はここでご自身の民に対して懇願しているさまが見えます。「あなたは病に冒されている、健全な所はどこにもない。」とこれが罪の説明なのです。むき出しにされている傷、それが、彼らに解放が必要だった場所なのです。彼らはそこから癒やされなければならなかったのです。これは美しい光景ではありませんでした。このことが原因で、この罪が原因で彼らはこの捕囚へと引かれて行ったのです。

けれども、神はそのあわれみの故に彼らに備えをしておられました。イザヤ書の最初から39章までは「さばき」について記されています。イスラエルに対するさばき、そして、それ以外のすべての国々に対するさばき、彼らの罪の故に行われるさばきです。しかし、40章に入るとその声色（調子）が変わります。40:1「**慰めよ。慰めよ。わたしの民を。**」、これは神が語っておられます。2節「**エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。**」、あわれみ深い神が赦しを与えようとしている姿です。神が解放しようとしている姿です。でも、神はどのようにしてそのことを為すのでしょうか？そのことが3節に書かれてあります。「**荒野に呼ばれる者の声がする。「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。」**」、これは新約聖書の始まりのことばです。別の言い方をすれば、神がやって来られるのです。神ご自身がやって来て彼らを解放するのです。9節「**シオンに良い知らせを伝える者よ。高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ。力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ。あなたがたの神を。」**」、皆さん、想像できますか？解放するために、人々を罪から解放するために、実際的には捕囚からの解放のために神がやって来られるのです。10節「**見よ。神である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある。**」、神が腕まくりをしている姿を想像できますか？そして、神は筋肉を誇示されるのです。何故なら、神であるその戦士がやって来られるからです。非常に力強い偉大な右手です。けれども、同時に、その腕は優しいのです。11節「**主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。**」、皆さん、両面が見えますか？神は力を持って解放するのです。けれども、同時に優しく人々を導くのです。

この後、40章、41章では、神はご自身を偶像と比較されますが、もちろん、そこには比較などあり得ません。このような状況が、今日、私たちが見ていく42章の背景にあったのです。神は解放を約束されました。

40：27「ヤコブよ。なぜ言うのか。イスラエルよ。なぜ言い張るのか。「私の道は主に隠れ、私の正しい訴えは、私の神に見過ごしにされている。」と。」、イスラエルの人たちは神のメッセージを信じないのです。「私たちはバビロンにいる。私たちは捕囚なのだ、神は私たちを見過ごしにされたのに違いない、神は私たちを忘れたのに違いない」と、神が語られたことに対してこのような見識を持つなどひどいことです。ですから、神は41：21で「あなたがたの訴えを出せ、と主は仰せられる。あなたがたの証拠を持って来い、とヤコブの王は仰せられる。」と、別の言い方をすれば「神の裁判所によろこ」と言われるのです。神がさばき主なのです。「もしあなた方がわたしの言うことを信じないのなら、あなたがたの訴えを持って来なさい。どうぞ、その証言台に立ちなさい」と、神はそこで争うことを望んでおられるのです。彼らがもし賢かったなら証言台に立つことはしません。その場に座り続けるでしょう。これらが背景となって42章に入ります。

神はこのさばきの座におられます。そして、そのさばきの場で神ご自身に仕える者を紹介します。神ご自身を選ばれた解放をもたらす者、神に仕える者です。最初の4節において、神は正義をもたらす者、仕える方を紹介します。そして、5－9節において、神はさばきをしている人々から目をそらして、仕える方に向かって話しかけるのです。私たちはその会話に耳を傾けることができます。42：1－9は、メシヤを紹介する最初の箇所です。49章ではこのメシヤご自身が語られます。そして50章でも同じことが起こります。そして、4回目、最後に私たちがこのメシヤに会うことができるのはイザヤ書53章です。この箇所は非常に有名な箇所です。私たちの罪のために打ちのめされた、それがこのメシヤを紹介するにあたっての頂点です。イザヤの福音のメッセージにおいての頂点に立つのです。けれども、私たちは今日、この裁判所においての最初の裁判での姿を見たいと思います。

A. 神に仕える方はどのようなお方か？ 42：1－4

ここで私たちは、偉大なる神である王が仕える王であるメシヤを紹介する姿を見ます。42：1「見よ。」と、これは「見なさい、寝てはいけません、注意深く見つめなさい、焦点を当てて見なさい、特効薬を与える」と、なぜなら、神がご自身に仕える方を紹介するからです。この方は、ヤーウエイなる主の仕え人なのです。

1. 神の支えがある

「わたしのささえるわたしのしもべ、」、神はこの方を支えておられます。この方の働きは大きなものです。罪からの解放、代々に渡って正義をもたらすこと、けれども、その働きをするためにこの方には神の支えがあります。主こそが、正義が行われていない状況に対しての特効薬なのです。これらは私たちを励ますことばです。見てください、このタイトル「わたしのしもべ」を。他にも「しもべ」はたくさんいました。モーセやダビデもそうです。けれども、この「しもべ」は最も「偉大なしもべ」なのです。モーセやダビデはイスラエルの王国のしもべでした、けれども、この「偉大なしもべ」は世界のすべてに正義をもたらすお方です。この方は代々の光になるお方です。この方は異邦人に対しての契約になる方です。イスラエルも神のしもべと言われました。けれどもイザヤ42：19では、このイスラエルのことを目の見えない、盲目のしもべと呼びます。「わたしのしもべほどの盲目の者が、だれかほかにいようか。わたしの送る使者のような耳しいた者が、ほかにいようか。わたしに買い取られた者のような盲目の者、主のしもべのような盲目の者が、だれかほかにいようか。」、このしもべは特別な方なのです。神はこの方をしっかり掴んでおられます。そして、神はこの方に特別の働きを用意されているのです。

2. 神の喜びがある

1節「わたしの心の喜ぶわたしが選んだ者。」と、神がメシヤを選ばれたことが記してあります。この世に正義をもたらすために、そして、神はこの方に喜びを見出すのです。このしもべには神の喜びがあります。神はご自身のしもべであるメシヤを用いることを喜んでおられるのです。この部分はマタイ3：17を思い起こします。イエスがバプテスマ受けられたその姿、「また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」」、また、マタイ17章でイエスの姿が変えられたその時にも、マタイ17：5「…そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。」という声がした。」と、これこそがまさに成就なのです。

3. 神からの助力・臨在がある

1節「わたしは彼の上にわたしの霊を授け、」、この方には、神ご自身の臨在があったのです。神の御霊が彼の上にとどまっていたのです。イザヤ11：1－2に出てくるメシヤに関することと同じことが言われています。そこにもまた、神の御霊がこのメシヤの上に留まることが記されています。「エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。：2 その上に、主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、はかりごとと

能力の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」。マタイ 3：16 でイエスがバプテスマを受けられたその時、天が開いて人々は何を見ましたか？ 神の御霊がイエスの上に注がれたことです。「こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。」、これが成就です。これには目的がありました。神に支えられ、神に選ばれ、神の喜びがそこに注がれて行きます。そして、神の助けがありました。

◎メシヤはどのように正義をもたらすのでしょうか？

1 節の終わり「彼は国々に公義をもたらす。」、これは神からの励ましです。これは間違いなく必ず起こるのだと神が言われる故に起こると神の裁判所で保証されているのです。メシヤが必ずこの世界に正義をもたらすのです。いろいろな所に旅をして私が気付くことは、世界の至る所で不正が行われていることです。イザヤ書の初めの部分にはエルサレムの都では正義を全く見ることができないと説明されています。そこには殺人者が満ち、イザヤ 10：2 では「彼らは、寄るべのない者の正しい訴えを退け、わたしの民のうちの悩む者の権利をかすめ、やもめを自分のとりこにし、みなしごたちをかすめ奪っている。」と、そこに正義が見られず、やもめや孤児たちが略奪されている、貧しい者たちがやもめを自分のとりこにしているとあります。けれども、このような不義に対して神は特効薬を持っておられます。なぜなら、いつの日か神の御国が確立されることを知っているからです。そして、その時にこの地のすべてには正義がもたらされるのです。どのようにしてもたらすのでしょうか？ 2－3 節で神がどのようにそれを為されるのかを見ます。

1. 静かにやって来る

最初にこの仕える王は静かに正義をもたらします。2 節「彼は叫ばず、声をあげず、ちまたにその声を聞かせない。」、他の王や征服者たちと違い彼は静かにやって来ます。ここで現わされている姿は、家の中にいる人たちが大声で言い争っているゆえに、外にいてもその声が聞こえるというそのような姿です。けれども、それは神に仕える方の姿ではないのです。この方は人々に対して攻撃的で恐れを抱かせるようなメッセージをもってやって来るのではありません。この記事はマタイ 11：28－29 に記されていることと似ていませんか？

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。：29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」。皆さんは罪のとりこになっておられませんでしょうか？ もしそうなら、あなたはイエスの元に行かなければいけません。このしもべの所に行くべきです。メシヤの所に行かなければいけないのです。そうするなら、この方は安らぎを与えてくれます。I ペテロ 2：23、イエスは人々から「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」、イエスはただただご自身を主に委ね続けられたのです。なぜでしょう？ それは神がこの方を支え続けておられたからです。

2. 愛情をもって

3 節「彼はいたんだ葦を折ることもなく、」、「葦」があります、もし私たちが歩いている時それに触れると折れてしまい折れた先が空に浮いています。私たちにとっての誘惑は、折れたのなら踏み倒してしまおうということです。けれども、メシヤはその折れているところを立て直してその部分を癒やすのです。この折れた部分を優しく癒やして行く姿というのは、メシヤがイスラエルの民を癒やす姿としてイザヤ書の中に記されています。30：26 で使われていることばはそれと同じです。「主がその民の傷を包み、その打たれた傷をいやされる日に、月の光は日の光のようになり、日の光は七倍になって、七つの日の光のようになる。」、イエスがやって来るその日に折れている部分が癒されるのです。私たちの多くはもう私は折れてしまっ、傷ついてしまっ、今にも消えそうだと思っていたのですが、イエスはそのような私たちに助けを与えてくださって、私たちを癒やしてくださるのです。「くすぶる燈心を消すこともなく、」と、ろうそくの心が燃え尽きて行くとき皆さんはその側に行つて消そうとしますが、イエスはそれをしないのです。消えそうになっているそのろうそくの所に行つて、新鮮な空気を与えることによって、もっと輝くことができるようにしてくださるのです。これが神のしもべです。

3. 正義を誠実に成し遂げる

3 節「まことをもって公義をもたらす。」、このメシヤは自分の働きから逸れることはなかったのです。これらの節はマタイの福音書 12：18－20 に引用されています。ここではイエスの働きについて語られています。「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を置き、彼は異邦人に公義を宣べる。：19 争うこともなく、叫ぶこともせず、大路でその声を聞く者もない。：20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。」。この 1－4 節には「国々」、「地」、また、「島々」という表現が出てきます。あらゆる場所、全世界すべてということです。

世界中のすべてのところに神は正義をもたらすのです。4節「彼は衰えず、くじけない。」、これは3節で見た「折ることもなく」、「消すこともなく」と同じことばが使われています。この方は継続してこの働きをし、この働きを止めることはないのです。

4. 彼の働きは邪魔されることがない

彼はくじけないだけでなく彼の働きは邪魔されません。「ついには、地に公義を打ち立てる。」、この方は自分の為さなければならぬ働きに目を向けそれを全うされるのです。ここで言われているのは先に出てきた「公義をもたらす」とは違う概念です。「打ち立てる」とは、この方が成し遂げ終えられるということです。この仕える王は島々にその正義をもたらすのです。「島々も、そのおしえを待ち望む」、これはイスラエルだけのことではありません。この日本のような島々も含みます。あらゆる世界の人々、イエスを信じる人々はこのときを待ち望んでいるのです。あらゆることばを語る人々がこの方がやって来るのを待ち望んでいるのです。確かにこの方は最初にやって来られたときは静かにやって来られました。けれどもいつの日か必ずこの方は、王として再びやって来られるのです。イザヤ51：4－5節「わたしの民よ。わたしに心を留めよ。わたしの国民よ。わたしに耳を傾けよ。おしえはわたしから出、わたしはわたしの公義を定め、国々の民の光とする。：5 わたしの義は近い。わたしの救いはすでに出ている。わたしの腕は国々の民をさばく。島々はわたしを待ち望み、わたしの腕に拠り頼む。」、覚えていますか？先程の力強い御腕を。「島々はわたしを待ち望み、わたしの腕に拠り頼む。」、皆さん、不正が行われることに飽き飽きしていませんか？心配することはありません。神は必ず来られます。神に仕えるこの方がやって来られるのです。これが1－4節までのところです。

神、義なるさばき主がご自身に仕えるこの方について私たちに紹介してくださったのです。

B. 神が仕える方に話しかける 42：5－9

そして次は、この仕える方に向かって神は顔を向けて語られます。けれども、このことがいかに重要であるかを人々に知らせるために、まず最初に、神ご自身を説明するのです。5節「天を造り出し、これを引き延べ、」、私たちが天を見上げるとき、それはまるで引き延ばされたかのように見えます。それは永遠に続いています。これは神が造ったものです。創造主である神、ゆえに神に耳を傾けるべきです。「地とその産物を押し広め、」、私たちが見ることができるこの地のすべての産物、人々の子孫や、動物、種、実り豊かな物、それらはすべて神の被造物なのです。それだけでなく、神はいのちの造り主です。「その上の民に息を与え、この上を歩む者に霊を授けた神なる主」はこう仰せられる。」、皆さんはこの方に文句を言いたいと思いますか？もちろん、言いたくないです。神は「わたしが主だ」と言われるのです。この宣告をもって神は私たちに注意を向けなさいと言われています。今、さばきの場、裁判所は静かになりました。その静寂の中でこの偉大な王はご自身に仕える方に向かって語るのです。これはまるで神がその仕える方を派遣して行く派遣式のようなのです。ここで私たちは神がいかにこの方を整えられたのかを見ることができます。

1. 派遣する 6－7節

派遣する準備ができています。神がこの方を整えられたからです。6節「わたし、主は、義をもってあなたを召し」、この方はふさわしいときに召されたのです。ふさわしい場所、天において召されたのです。「正義」という正しい目的のために召されたのです。そして、「あなたの手を握り、」、神がその仕える方を派遣して行く、その姿を見ませんか？「わたしはあなたを召し、あなたの手をつかんだ」その姿です。あなたの働きそのすべてをわたしは掴んだ、あなたが必ず成功することができるように手を握っていると。そして、神は言われます、「あなたを見守り、」と。イエスが神を信頼したのは不思議ではありません。イエスはこの箇所を私たちよりもより深く理解していたのです。そして、神は言われます、「あなたを民の契約とし、」、この方は契約をもって来るだけでなく、この方ご自身が契約なのです。この方が人となられた契約です。あらゆる約束はこの方に要約されていたのです。そして、この契約につながっている約束をこの方は与えるのです。事実、ヘブル人への手紙8章では、この方がより優れた契約を私たちに与える方であることを教えています。8：6「しかし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られました。それは彼が、さらにすぐれた約束に基づいて制定された、さらにすぐれた契約の仲介者であるからです。」と。

そして、神は「国々の光とする。：7こうして、盲人の目を開き、囚人を牢獄から、やみの中に住む者を獄屋から連れ出す。」と言われます。皆さん、この方の説明がだんだん大きくなって行くのが見えますか？これは単に、バビロンから民をその捕囚から解放することではないのです。これは私たちの罪からの解放です。なぜなら、ルカの福音書4章の中でルカはこの箇所をイエスに適用するのです。霊的に盲目の人たちに見る力を与える、そして囚われている者たちを解放するのです。4：17－19「すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけた。：18「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人

には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、**：19 主の恵みの年を告げ知らせるために。**」。私は自分が獄屋にいたことを知っています。自分の自己中心と罪に満ちた世界、けれども、神は私の目を開いてくださいました。そして、この方の御子イエス・キリストこそが私の光であり、契約であり、そして今、私はこの方がやって来られるのを待っているのです。私たちクリスチャンはヨハネ8：12の**ことば**を思い出さなければいけません。**「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」**」、このことばはここに書かれていることの成就だと思いませんか？主は自分自身のことを語り、ご自身に仕える方を派遣して行かれるのです。

2. ご自身のことばを証明する

8－9節でそのお方はご自身のことばを証明します。もし、あなたがわたしの言っていることに疑いをもつとするなら、神は、わたしがそれを証明すると言われています。私たちはさばき主であるこの王である神がメシヤを派遣した後に、もう一度会衆に向かって目を向ける姿を思い浮かべることができます。8節**「わたしは主、これがわたしの名。」**、わたしこそが偉大な人物だと言われるのです。いったい、だれがこの方に反論することができるのでしょうか？**「わたしの栄光を他の者に、わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。」**、わたしの栄光を他のものに与えない、だれ一人、偶像さえも栄光を得ることはできないのです。その姿はイザヤ6章に記されている**「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」**という叫びに似ています。他の偶像すべては自分たちは何か特別なものと思ったかもしれませんが、彼らは神に比べると何でもないので。そして、これは必ず起こらなければなりません。なぜなら、主がそう言われたからです。神ご自身の名をもってそれを証明されたから、ご自身の栄光をもってされたから、そして、ご自身の証言をもってされたからです。**「わたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。」**と言いました。皆さんが偶像を見るときはこの節を思い浮かべないといけません。インドには大体3億ぐらいの偶像が存在します。けれども、それらは全く意味がありません。神だけが栄誉を受けるのです。

そして、それだけでなく、すでに語られた預言をもってきます。9節**「先の事は、見よ、すでに起こった。」**もちろん、神が何か預言すればそれは必ず起こります。わずか数年の間に、人々がバビロンにいたとき、このイザヤ書に預言されているクロス王についての預言が成就するのを彼らは見ます。彼らは神が真実なお方であるということを知るので。ですから、神はご自身のことばを以前の預言をもって証明するのです。それと同時に、また新しい預言をもっても証明します。続いて9節**「新しい事を、わたしは告げよう。それが起こる前に、あなたがたに聞かせよう。」**と、神は何が起こるのかということ私たちに告げるのです。そして、私たちはもうそれらが起こり始めていることを知っています。仕える方がやって来られたのです。イエス・キリストは来られました。叫び声、大声を上げて来られませんでした。私たちに光をもって来られました。私たちに警告を、救いを、罪からの解放をもって、ある日必ずこの方はもう一度やって来られるのです、世界すべてに正義をもたらすために。私たちはこのことをピリピ人への手紙の中で学びました。ピリピ2：10－11**「それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、：11 すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」**と。ある日、すべてのひざが主の前にかがみ、すべての口は**「イエス・キリストは主である。」**と告白するのです。

悲しい事実は、多くの人たちがそれを強制的にさせられることです。けれども、私たちはそれを喜んで進ん

ですることができるのです。メッセージを信じること、罪を悔い改めることによって、主に仕える方がやって来られたのだと言えるのです。このことは残念ながら、イスラエル人にとっては信じるのが困難なことでした。このようなすばらしい予言の後で、イザヤ49：14**「しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた。」と。」**、24節**「奪われた物を勇士から取り戻せようか。罪のないとりこたちを助け出せようか。」**と言います。ひどいことだと思いませんか？そこに信仰のかけらも見当たりません。彼らは「神さま、私たちはこのバビロンの偉大な兵士達に囚われている私たちを、あなたが助け出すことができるかどうか分かりません。」と言っているのです。だから、神はこの仕える方をもう一度50章で紹介するのです。50：4でこの仕える方ご自身が語り始められます。**「神である主は、私に弟子の舌を与え、疲れた者をことばで励ますことを教え、朝ごとに、私を呼びさまし、私の耳を開かせて、私が弟子のように聞くようにされる。」**、50：6**「打つ者に私の背中をまかせ、ひげを抜く者に私の頬をまかせ、侮辱されても、つばきをかけられても、私の顔を隠さなかった。」**、分かりますか？イメージがだんだんはつきりして来ることが。メシヤに関するこの預言50：7**「しかし、神である主が私を助ける。」**と。42章で神は助けをくださると言っていました。そして、そうされるのです。私たちはまだ神のさばきの座にいます。そして、この方は語り続けるのです。**「わたしの所に来なさい。わたしは特効薬をもっているのです。」**と。そして、53章へとつながります。

53章で、神はこの仕える方を再び4回目の紹介をします。53：5**「彼の打ち傷によって、私たちはいやさ**

れた。」と、イエスのことについて語られています。私たちはこのことばを信じなければいけないのです。これは神から出ているのです。このことはイザヤが語った福音なのです。それはイエス・キリストによって完全に成就したのです。イエス・キリストこそが神に仕える方です。彼はやって来られて私たちの罪の贖いをされるのです。私たちの罪のために彼は苦しまれたのです。もし、私たちがそれを信じるなら、私たちはこの方の民になることができます。もし、私たちがこのことばを信じ、神の元に立ち返るなら、私たちは神の民になることができるのです。そして、私たちは彼がもう一度やって来られることを待ち望むことができるのです。世界すべてに正義をもたらすために。ですから、42：9の後に10節が続いていることは偶然ではないのです。9節の後に、もしこれを信じるなら皆さん何をしますか？10節「**主に向かって新しい歌を歌え、その栄誉を地の果てから。海に下る者、そこを渡るすべての者、島々とそこに住む者よ。**」とある通りです。そのはずです。11節「**荒野とその町々、ケダル人の住む村々よ。声をあげよ。セラに住む者は喜び歌え。山々の頂から声高らかに叫べ。**」、12節「**主に栄光を帰し、島々にその栄誉を告げ知らせよ。**」、その栄誉を日本において告げ知らせよ。13節「**主は勇士のようにいで立ち、戦士のように激しく奮い立ち、ときをあげて叫び、敵に向かって威力を現わす。**」、神の偉大な御腕が私たちを解放してくださるのです。そして、その同じ力強い御腕は私たちを優しく受け入れてくださる、皆さんを罪から解放してくださるのです。それこそがまさに神のあわれみです。アーメンですね。

旧約聖書には新約聖書で学んでいる事実が記されています。メシヤは来てくださった、罪を赦そうと神は私たちを招いてくださった、救われた者はこのすばらしい福音を伝えるのです。